



今年度最後の授業参観・学級懇談会

本日(27日)は、今年度最後の授業参観・学級懇談会でした。各学級・学年で、工夫を凝らした授業参観が行われていました。低学年では、生活科と関連付けて、自分の成長したことやできるようになったことなどの発表、中学年では、3年生が総合的な学習の時間でまとめたことの発表や、4年生が国語で身の回りのことについて調べ、アンケートでわかったことの発表、高学年は5年生が社会科や外国語の授業、6年生が平和学習で学んだことなどの発表でした。それぞれに一年間の成長が伝わる内容でした。



学級懇談会では、担任の方から1年間を振り返った学級の成長の話があったと思います。参加していただいた保護者の皆様全員で子供たちの成長を共有していただき感謝しています。子供たちには、今年度を気持ちよく締めくくってもらうためにも、保護者の方からお子さんの成長をしっかりと認めていただき、自己有用感を育てて欲しいと思います。何度も書いていますが、この自己有用感を育てるために最も効果的なのは、「認める」という行為です。学校と家庭とでお子さんの成長を共有しながら、「子供のよい面を認める」ことで、自己有用感を伸ばして欲しいと思います。

学校評議員会

授業参観に合わせて、学校評議員会も同時開催しました。「わくわく通信65号」にも紹介した通り、地域や社会に開かれた学校づくりの推進のために、学校評議員の制度があります。今回も学校運営や子供たちの様子を知ってもらうために、授業を保護者の方々と一緒に見学していただきました。

授業参観の合間に、私の方から評議員の皆さんに、学校評価アンケートの結果や学校運営について説明し、意見交換を行いました。

評議員の方からは、授業の様子では、「子供たちが一生懸命意見を発表し、それをしっかりと受け止めている姿が素晴らしい。」「学校からの情報発信の仕方がよい。」「発表している様子も、壁新聞ありタブレットありで、それぞれのよさを生かして工夫しながら発表している。」と感想をいただきました。教育課題への提言として「教育現場も時代とともに変化し、学校の先生もやり辛いところがあると思う。」「保護者として問題が起きたことを子供から聞いた時は、その情報を学校と共有して解決していくようにしている。それが問題解決につながると思う。」という意見をいただきました。本校の教育について「教室の掲示物(「心のパズル」、学級目標、学びの足跡等)が統一されている。そういう同じ取り組みが学年・学校に波及し教員の意識改革に結び付き、教育効果を高めると思う。」というコメントを頂きました。

評議員の皆さん、参加いただきありがとうございました。